

Carbon neutrality 2050



# 濟州のグリーン水素の グローバルハブへの戦略



## I. 推進の背景

- ・ 2050 カーボンニュートラル、グローバルパラダイムと  
濟州のグリーン水素のグローバルハブへの戦略

## II. 推進の成果

- ・ 再生可能エネルギーと電気自動車の普及
- ・ 濟州グリーン水素グローバル基本計画発表

## III. 新産業の成長エンジン：

### カーボンニュートラルの拡張と革新

- ・ 濟州をグリーン水素のグローバル・ハブに：再生可能エネルギー拡張
- ・ 濟州UAM (Urban Air Mobility)：未来モビリティの拡張
- ・ 濟州型分散エネルギーの活性化

## IV. 期待効果





# 気候変動に対応する2050カーボンニュートラル！ グローバル・パラダイムに確立



## 主要先進国 2050カーボンニュートラルの目標宣言と意志表明

- ・イギリス ('19.6)、フランス ('19.11)
- ・EU ('20.3)、米国 ('21.1)



## 大韓民国 世界の動向に積極的に歩調を合わせ、 2050カーボンニュートラル計画を表明 ('20. 10)

- ・カーボンニュートラルに能動的に対応する関係省庁の活動  
2050カーボンニュートラル推進戦略を設定('20.12)
- ・2030国家温室ガス減縮目標(NDC)の上方修正  
(26.3% ▶40%)発表 ('21.11)



## 済州特別自治道 炭素中立産業の拡張と革新

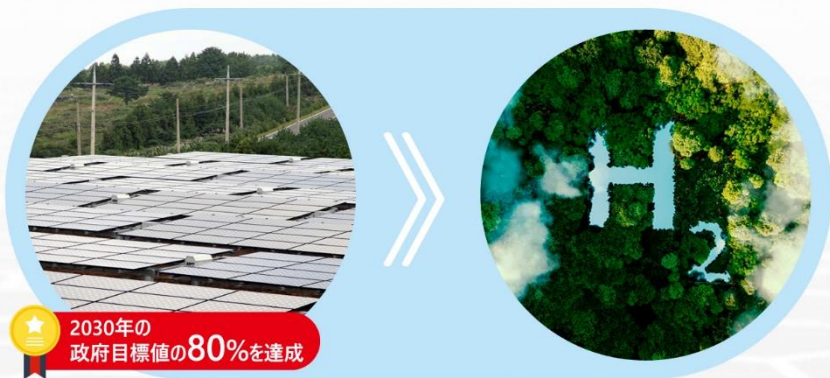
- ・世界最大のスマートグリッド国家実証団地の造成(2009~2013)
- ・加波島(ガパド)でCFI島の構築を推進し('11.11)、100%再生可能電力を供給('16.6)
- ・カーボンフリーアイランド済州by2030を発表('12.5)
- ✓ 2015年パリでの国連気候変動枠組条約締約国会議(COP21)で済州道のCFI政策を紹介
- ✓ 2021年P4Gのエネルギー部門で最優秀パートナーシップ賞を受賞し国際社会から認められる
- ・済州グリーン水素グローバルハブ基本計画発表('22. 9)





# 気候危機を新産業の成長エンジンとして カーボンニュートラル産業を拡張と革新

## 再生可能エネルギーの拡張



★ 2030年の  
政府目標値の80%を達成

全国最高の  
再生可能発電率

**18.3%**  
(2021年)

再生可能エネルギー基盤  
グリーン水素のグローバルハブ

## 未来モビリティの革新



EVの登録数  
29,556台(7.24%)  
(2022年 9月 現在)

済州型  
UAM  
(Urban Air Mobility)



# 再生可能エネルギー基盤 グリーン水素のグローバルハブ基本計画発表 (22. 9. 29)



## 生産

国家グリーン水素の自給率  
60%まで寄与



## 普及

安定的で経済的な  
流通・普及システムの構築



## 活用

公共分野の安定的な活用先を確保  
産業・生活などの拡大



## 生態系

雇用の創出  
水素企業20ヶ所を誘致及び育成

# 濟州をグリーン水素の グローバルハブに

## 豊富な再生可能エネルギーをもとに グリーン水素を生産、普及、活用、産業化する グローバルハブの構築



### (生産)拠点別の生産基地の構築

- ・ 12.5MW アジア最大の実証事業 稼働 拠点別に拡大



### (活用)公共エリア > 民間エリアの拡大



- ・ バス(300台)、清掃車(200台)、トラック、トラム、船舶、ドローンを導入
- ・ 水素発電所への転換、水素の輸出入



### (普及)15分都市に連携し、水素ステーションを普及

- ・ 水素の活用が便利な与件の造成





# 济州型の都心航空交通 (Urban Air Mobility)

環境にやさしい自動車の普及実績とインフラを基盤に未来モビリティの  
UAM産業を育成 (2025年の商用化を目指して推進)



## 主要先進国

济州道内の航空需要を拡大させて航続距離を延長し、  
木浦(モッポ)釜山(プサン)など主要都市へ旅客輸送の範囲を拡大



## 操縦士の教育及び耐空認証

UAM操縦士の育成教育システム、  
国際耐空認証基地の推進



## UAMサービスの拡張

観光、医療、デリバリー などの新しいサービス分野に拡張



## UAMの充電機器

充電サービスおよび製造に特化した企業の核心的な能力を活用、  
UAMの離着陸場の充電機器産業の育成



# 济州型分散エネルギーの活性化

分散エネルギーは環境にやさしいエネルギーをさらに拡大し住民や事業者の収益モデルを作り、**再生可能エネルギー中心の新たな経済をリードする**

- ✓ 全国で初めて+DR制度を導入 (2021)
- ✓ EVバッテリーを活用するV2Gの試験事業を進行 (2021)
- ✓ 余剰電力を水素熱などの環境にやさしい燃料に変換するP2Xの国策課題を実施 (2021)
- ✓ 再生可能エネルギーの出力安定化のための大規模エネルギー貯蔵装置(ESS)(2023年 予定)

## 供給



さいせいエネルギー  
エネルギー貯蔵装置 (ESS)

## 需要



P2H, P2G の適用  
+DR統合発電所(VPP)の活性化

## 制度の改善



分散エネルギー特区の  
再生可能エネルギー基盤の仲介市場



# 期待効果





*Carbon neutrality*<sup>0</sup> 2050

濟州は、グリーン水素のグローバルハブを通じて  
グローバル・カーボンニュートラルに寄与し、  
韓・日海峡沿岸市道県の共同繁栄のための協力を強化します。



## 済州国際青年フォーラム

海外交流都市の青年が集まり、グローバルな課題について議論し、持続可能な発展目標の具体的な実践策を模索するグローバル交流の場を設ける

- ✓ (日時,場所) 023. 10月中旬～11月上旬、2泊3日間／済州道内一円
- ✓ (主催,主管) 済州特別自治道/ UNITAR 済州国際研修センター
- ✓ (参加) 済州道の交流都市(20都市を予定)の青年および済州の青年など約150人
- ✓ (内容) 開幕式、基調講演、専門家の講演、パネル・ディスカッションと結果の発表、済州文化探訪など



ご静聴、ありがとうございました。